令和４年度　第２学期終業式　校長講話　　R4.12.22（木）

皆さん、おはようございます。
今日で２学期が終了となりますが、どのような学期だったでしょうか。
現在もコロナ感染は拡大傾向が続いています。引き続き、感染防止を図りながら毎日を過ごしてください。

そのような中でも文化祭や長距離大会、修学旅行、球技大会などの行事が実施できたことは大変良かったと思います。制限もありましたが、その中でも思い出に残るものになったのではないでしょうか。私も皆さんの様子を見て元気をもらいました。

また部活動においても、今までたくさんの表彰があったとおり、多くの部活動が頑張りました。私も大会の応援や展覧会などにも顔を出させてもらいましたが、皆さんの活躍は本当に素晴らしいと思います。来週には吹奏楽部のウインターコンサートなどもありますが、皆それぞれに頑張ってください。

さて成績では、２学期の成績優良者（１年生 4.3 以上）は１年生３６人（１４人）、２年生（8.0 以上）４１人（３３人）、３年生（8.0 以上）３１人（５２人）でした。（９人増）よく頑張りました。残念ながら不振者もいました。３学期はしっかり頑張ってください。学年の（　人）は１学期。

さて、今日は新しい年を迎えるにあたり、どのような気持ちで１年を過ごして欲しいかと言うことについて話したいと思います。

それは、一言で言えば、改めて「凡事徹底」を図って欲しいということです。
凡事徹底とは「当たり前のことをちゃんとやる」ということです。皆さんもよく耳にする言葉だと思います。

例えば松下電器（ナショナル）現在はパナソニックの創業者の松下幸之助氏は、「会社を訪問した時、３つのことを見ればその会社がどのような会社であるかすぐにわかる」と言っています。
それは、
　一つ目は、従業員の挨拶
　二つ目は、整理整頓
　三つ目は、トイレの掃除
いずれも当たり前のことを当たり前にするということが大切であると言っています。

これは、学校にもあてはめることができます。
「挨拶」、「整理整頓」、「掃除」、
当たり前のことを当たり前にできること、つまり「凡事徹底の風土」をつくることが大切です。
挨拶をする。掃除をしっかりする。平凡なことを非凡に積み重ねていくことが、いずれ、大きな差になってきます。

銀座まるかんの創業者、斎藤一人氏（さいとう　ひとり）は「微差力」ということを言っています。（1993 年から 12 年連続、長者番付 10 位以内。1997 年・2003 年と納税日本 1 位に。納税王と呼ばれる。）
「『小さな行動を積み重ねなさい』この小さな差、つまり「微差」こそが大差を生むのですよ」と。「継続は力なり」と言っています。

また、サッカーの元日本代表の長谷部誠氏（はせべまこと）が書いた「心を整える」という本の中には、「整理整頓は心の掃除に通じる」とういう見出しがあり、こんなことが書いてあります。
「試合に負けた次の日などは、何もしたくなくなって、部屋が散らかってしまう時がある。あの場面でああすれば良かったという未練や悔しさが消えず、自分の心の中が散らかってしまっているかもしれない。そんな時こそ、整理整頓を面倒くさがらなければ、同時に心の中も掃除されて、気分が晴れやかになる。」
整理整頓することにより、心の中も掃除され、気分も晴れる。

私は、「凡事徹底」することが、心の中を整理整頓し、人として成長することにもなるのではないかと思います。皆さんも心の中を一度、整理整頓して新しい年を迎えてはどうでしょうか。

微差力が大切、「凡事徹底」を心掛けてください。

最後に、短い冬休みとなりますが体調管理をし、時間を有効に活用してください。
特に３年生はやるべきことを確認し、一日一日を大切にしてください。
３学期を楽しみにしています。